

平成25年白老町議会総務文教常任委員会会議録

平成25年 9月 25日（水曜日）

開 会 午後 7時 00分

閉 会 午後 8時 52分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 白老町小学校適正配置計画（案）について

- ・参考人からの意見聴取について
 - ・PTAの意見について
-

○出席議員（6名）

委員長 小西 秀延 君

副委員長 山田 和子 君

委員 吉田 和子 君

委員 斎藤 征信 君

委員 本間 広朗 君

委員 前田 博之 君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

参考人（社台小学校PTA会長） 堺 澤 均 君

参考人（社台小学校PTA副会長） 木 村 和 枝 君

参考人（社台小学校PTA副会長） 萌 出 義 彦 君

参考人（社台小学校PTA監査） 佐々木 正 記 君

○職務のため出席した事務局職員

事務局 長 岡 村 幸 男 君

主 査 本 間 弘 樹 君

◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） ただいまより、総務文教常任委員会を開会いたします。

（午後 7時00分）

○委員長（小西秀延君） 本日は、白老町小学校適正配置計画（案）について、適正配置計画の対象となっている社台小学校のPTA役員の皆さんに参考人として本委員会に出席していただき、意見をお聞きすることとしております。参考人からの意見の陳述の後、参考人に対して質疑を行います。参考人の退席後にお聞きした意見に対して各委員からご意見をいただくこととしておりますので、よろしくご審議お願いいたします。それでは調査のため参考人として社台小学校PTA役員会長、堺澤均氏副会長木村和枝氏、同じく副会長萌出義彦氏、監査佐々木正記氏の4人を招へいしております。参考人の入室をお願いいたします。

暫時休憩をいたします。

休憩 午後 7時00分

再開 午後 7時 1分

○委員長（小西秀延君） それでは休憩前に引き続きまして、会議を再開いたします。

参考人には本日は大変お忙しい中、本委員会の調査にあたり参考人として快くお受けいただき誠にありがとうございます。会議を進めるにあたって自己紹介をしたいと思っております。それでは、常任委員会側から、私最後にごあいさつをさせていただきますので副委員長山田副委員長からお願いいたします。

○副委員長（山田和子君） 皆さんこんばんは。私、副委員長を仰せつかっております、山田和子と申します。よろしくをお願いいたします。

○委員（斎藤征信君） 共産党の斎藤でございます。

○委員（吉田和子君） きょうはどうもお疲れ様でした。吉田和子と申します。よろしくお願いたします。

○委員（前田博之君） ご苦労さまです。前田です。よろしくお願いたします。

○委員（本間広朗君） きょうはご苦労さまです。本間です。きょうはよろしくお願いたします。

○委員長（小西秀延君） それでは最後に私、総務文教常任委員会の委員長を務めております小西と申します。きょうは大変お忙しい中ありがとうございます。白老町議会には総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会という常任委員会が所管を2つに分けて、各種の白老町の事業を所管し調査しそれを委員会の意見としてまとめて、町のほうに議会の場で報告をするというシステムになっております。常任委員会も一つは広報常任委員会があるのですが、こちらのほうはこういう町の団体等の調査をやるというよりは広報的な役目を担っておりまして、調査分析しそれを議会に意見として述べるという常任委員会2つありまして、きょうはその1つの常務文教常任委員会という委員会で、きょうの議題に上がっております、白老

町小学校適正配置計画（案）について、本日は社台小学校の皆さまをお招きしておりますが、今後白老小学校そして緑丘小学校は各3校にこのような調査をお願いいたしまして、それをまとめ、議会に報告をさしていただくという形になっております。急に呼ばれまして何事が始まるのかと、ご心配をされていることかと思っておりますが、気さくに意見交換をしてこの適正配置計画に対するご意見等をおっしゃっていただければありがたいなと思っております。きょうは夜仕事を終わって大変お疲れの中ありがとうございます。どうぞよろしくお願いたします。それでは早速ですが参考人の皆さんから、この度の白老町小学校適正配置計画（案）についてお話をお聞きしたいと思います。計画案では社台小学校、白老小学校、緑丘小学校3校の統合を進め、統合の目標年度は平成27年度とされております。統合後の小学校施設は緑丘小学校を活用することとしております。社台小学校PTAの皆さんにはこの計画案に対して教育委員会から説明を受け、アンケート調査の実施や統合に対する協議をされていると思いますが、現段階での協議の状況また統合に対するお考えについてお話いただきたいと思っております。PTA会長堺澤均さん、お願いしたいと思います。それでは参考人PTA会長堺澤さんどうぞ。

○参考人（堺澤 均君） 第1回目の教育委員会の方々と話した結果なのですが、ほとんどの意見として反対意見の方が多かったです。それで、その反対の意見として苦小牧から転校して社台小学校に入学をした2名のお子さんがいるのですが、それでいじめにあったと。また統合していじめにあうのではないかという話もあります。もう一方の方ですが、社台小学校が好きで家を建てたと。それで、どうしても強い反対の方がいました。その先の話もされてもよろしいですか。

○委員長（小西秀延君） アンケート結果からまとめて全般的にあればそういう意見どうぞ。

○参考人（堺澤 均君） 我々役員として役員だけで話をして、反対意見の方が多かったもので我々役員の意見をまとめたのが平成30年をめぐりにして統合賛成という感じて持っていないのではないかと話をしました。町内の方でちょっと唐突すぎてちょっと時期的にまだ早いのではないかと話もあったので、我々役員は30年をめぐりに皆さんの保護者の方の意見を聞くのではないかと提案を出して保護者だけで話し合いをしたのですが、その結果ですけれど30年という年度は出さないで、一年一年また話し合いをしてその30年を出さないほうがいいのではないかと話をされました。保護者の中ではいじめが一番心配している方が多くてこの前の保護者の間で話し合った結果ですけれど、今後の児童数、教員数の推移のはっきりしていないのであれば平成30年度までの助言をしないほうがいいのではないかと。これから社台小学校に入ってくる児童の保護者の意見も聞きながら毎年統合の話について続けていくのが望ましいという話と、白老町は財政的に厳しいと聞いているが、お金がないということであれば仕方がないと思っていたがその理由ではないらしい。6月の町教員の説明会では複数のデメリットと子供に目が行き届くこの小規模の状況をメリットとして備えている私たちには、なぜ社台小学校が統合しなければならぬか納得できないと。別な意見で社台小学校を苦小牧の樽前小学校のように白老町の特認校として位置づけ、白老町内全域から保護者の皆さん、児童の皆さんの門を開くというか、そういう学校にしてはいいかという意見

も出ました。足りない意見あれば、お願いしたいのですけど。

○委員長（小西秀延君） せっかくの機会ですので。それでは木村副会長。

○参考人（木村和枝君） 意見であったのは、例えばが白老と緑小が先に統合して、後から社台が統合するのも、後から入りにくいというのもあって、いやだという意見とかもありました。先に例えば白老と緑小がしたとして後から社台という、それもいやだという、そういう意見とかありました。スクールバスが出るとなれば便利というか中学校もという話になれば便利は便利かなとは思うのですけど。学校が緑小で白老小の名前と校章で社台はないのかという。社台が何もないのかというのがあります。

○委員長（小西秀延君） ほかはよろしいですか。木村副会長から。一通り皆さんから、後でまた何かありましたら。それでは萌出副会長。

○参考人（萌出義彦君） 大体出ているのでないのですけれども、誰かが言っていたのですけども町が合併しようとするはっきりした理由が、これだからというのがつかないということです。例えばお金がなくてどうしようもないのだったら賛成するしかないでしょうみたいな。そうしたら、それに対する逆に対策を早く打ちたいというか、どうしようもないのなら。だけど例えばメリットだとかそういうことであやふやだというのですよ。直接協議会にも行ったらしいのですけど、はっきりした、だから合併する理由がメインとして何なのだという聞きたいということです。

○委員長（小西秀延君） 以上でよろしいですか。それでは、続きまして佐々木監査、よろしくお願いたします。

○参考人（佐々木正記君） あと特には今出た意見がほとんどだと思います。小人数で反対の意見を言っているので、賛成の意見というのは全然どういうのが賛成なのだよという意見を全く誰からも出てこなかったもので、反対反対の意見しか小人数なのですけど、今言ったぐらいのものです。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 保護者数の世帯が22世帯なのですけど、それでこの間の保護者だけの集まりで14世帯の方が集まりました。人数でいけば18名、これは私たち役員も含めてなのですけど。大体これで賛成反対半々くらいで分かれた。意見的には述べてくる方はほとんど反対の方はだけで、反対の方から逆に賛成意見の方に何かないのかみたいなこと言われていたのですけど、だから賛成だから述べることがないと、そんな話もいろいろ出たのですけど。そんな感じで話し合われたというか。

○委員長（小西秀延君） また足りないところございましたら、私のほうにお声をかけていただければ、またその都度ご意見を述べていただきたいと思います。

それでは、これより委員から参考人に対して質疑をお受けいたします。質疑のあります委員の方はどうぞ。

斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） きょうはよろしくお願いたします。今の話で大体のはわかりましたけれども、役員会でどのくらい話し合っ、保護者の皆さんと今までどのくらいの割合でお話

をしているのか、そのあたりお聞かせください。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 役員会では、学校に集まったのは一応1回目の話し合いのまとめと教育委員会、そのまとめた後保護者だけでは集まろうという感じの集まりで、2回ほどありました。

○委員長（小西秀延君） 役員会の2回と保護者と。

○参考人（堺澤 均君） 保護者同士では1回です。

○委員長（小西秀延君） 続けてございますか、斎藤委員。斎藤委員どうぞ。

○委員（斎藤征信君） 年限を決めて30年から本気に考えようという話が出というのだけでも、その結論としては出さないほうがいいということで大体おさまったのです。まだそれは、そういう声というのはまだあるのですか。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 役員の方の意見として特別反対賛成という方はいないのですよ。というか、言っているのかどうかもわからない状態です。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長。

○参考人（木村和枝君） 父兄の方たちは30年をめぐりにしないというのは新しく入ってくるお母さん方というか保護者の方々と、その都度その都度話し合いをしていったらいいのではないかという話なのです。入って来て次は移りますよというのではなくて、徐々に話をしながら、その都度都度相談して行って、みんなで話をしていったほうがいいのではないかということには言っていました。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 統合の意味がわからないという、このところが一番問題なのだろうと思いますけど。教育委員会のほうでメリットやデメリットだとか、複式をできるだけ解消したいとかという理由をきちんとつけているわけです。そういうことに対して現在3学級ですから複式ですよ。それらに対して複式についてどんなふうに考えているのか、今の状態がいいのか、やはり複式だから単式にしたほうがいいのではないかという、そういう話というのはなかったのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長。

○参考人（木村和枝君） そういう話は複式がいいとか単式がいいとかいう話はなかったです。複式がいいからあれだとか、それはあまり話は。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） そうすると、いじめの心配をかなりしていたようですけども、社台の子供たち、私はわかりませんが、いじめということに対して、やはり耐えられないのではないかなというふうなそういう思いというのは何かあるのですか。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長。

○参考人（木村和枝君） いじめというか、今人数が少ないので目立っていじめというか、多大のけんかくらいはあるでしょうけど、そういういじめというのはないので大きいところ

に入ってしまうと、よくニュースとかでいろいろ聞いたりするので、だから突然そういう大きいところに入ってそういうことがあるのではないかとか。

○委員（斎藤征信君） 一般的な形として大きいところに入ったら。

○参考人（木村和枝君） 逆に友達ができるというのかもしれないですけど、そういうのも結局社台からバス乗って、ちょっと離れてしまって何かあって直ぐ迎えに行ったりできないとかもあると思うので、そういうのもご心配だと思うのです。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員よろしいですか。ほか質疑をお持ちの委員どうぞ。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 私にとっても学校は地域に1校ずつというのは前からうたっていましたので、聞いたときにはえっという感じだったのです。もちろん当事者の皆さん方はえっという感じだったと思うのですけれども、そのデメリットとしてはその複式ということで前に社台小学校のお母さんから、そのことを心配して相談を受けることがあるのです。だんだん複式になってきていると。まだ複式全部ではなかったのですけど。子供の学力のことが心配だという、ちょっと相談を受けることがあったのです。そのことでこの間教育委員会と話ししたときに学力の面で複式をやっている中学校になったら3校一緒になりますよね社台から白老。そういった中での差というのが見られるのかといたら、それは個々のあれがいろいろだけでも、やはりちょっと違うのかもしれないけど、だからついていけないとかそういうことではないようなお話だったのです。だから私は今の複式に対しての、やはりなかったと今聞いたので、それをお伺いしようと思ったのですけど、そういったことの心配はなかったのかどうかということと、それともう1点、森野小学校が前なくなるというときにもいじめの問題があったのです。学校へ行くといじめられるかもしれないということで、いじめがあって、やはりその学校へ行ったという子供もいまして、そういう話があって、反対に孤立化してしまうというのか、人間関係が小さいときから、保育所は統廃合になりましたけど、ずっと一緒に人間関係がある程度固定化してしまって、もしかしてそこ入れなくて自分の周り見たときに人数少ないから溶け込める人数の輪が小さいですよ。だから、そういった心配がないのかなとちょっと思ったりもして、反対の意味で。大勢いるといろんなことがいっぱいあって、ふれあいもあっていろんなことがある。小さいと小さいなりのそういう固定化してしまって、それに入れなかったらちょっと何か外れてしまうと外れたままになっていくような。私も子供を育ていき学校は緑丘小学校だったので、大きい学校だったので、その中にいましたから全然そんなこと考えることなかったのですけど、たまたま小さい学校にいたお母さん方と懇談したときに、そういう話がちょっとあったので、そういう面ではどうなのでしょう、複式に対しての心配しているお母さん方というのは出なかったということなので、賛成の方はそれが心配だからいいという意味だったのか、全然出ないというのは反対の方は複式を認めているから、いいから反対だということだと思えるのですよね、反対に考えると。だから、複式に対しては役員の方々から見てその辺は何か考え、思いというのはありませんか。どうですか。あまりないですか。何か半分の時間は先生がつかないで授業をしなければいけないというか、教育委員会の話では。私たちも複式を見ているわけでは

ないので、1回学校を見てみななければいけないのかもしれないですけど、どういう状態になって、どういうふうな子供たちが過ごし方をしているのかということは、きちんと見られないですよ。だからちょっと、それが本当にいいよ、悪いよと言われてもぴんと来ないところもあるんですけど、お母さん方から見て参観日とか行ったりPTAの方々が行ったりしてみても、そういう面での学校はそれがデメリットだと言っているわけですから、教育委員会は。だから、その部分に対しては違いますよと、そういう心配はないですよとか、何かそういつて意見。それに対して何も反対意見はなかったというからいいという意味なのか、すんなりすつと入るのかなと思ったんですけど、どうなのでしょう。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長どうぞ。

○参考人（木村和枝君） 多分、統合という、そっちのほうがあれば、複式とか出てこないのかもしれないですけど。統合がいやみたいな、まだすぐそんな話とかだったの、多分複式とかそういう話はあまり聞かなかったです。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 先ほど役員のほうで30年、それは出すか出さないか別問題としても、30年一つのめどにして1年ごとに話し合っていきたいという、その都度の状況判断をしながら進めていきたいと話があって、そのことを最初伺ったときに私はもし3校が統合するといつて、白小と緑小が先にやったときに、先ほどおっしゃったように後から社台が入ってくるということに対して、ちょっと大丈夫かなと一瞬思って聞いていたのです。ただ私の意見としては、本当は実は一応は27年と教育委員会出していますので、今保育所にやっていつている子供がいて、お父さんお母さんの意見はどうなのかなと思ってはいるのです。けれども今回は今現在携っているPTAの役員の方と懇談する機会を持っていたんですけども、先ほど理由がはっきりしないという話もありましてね。だから本当に明確な理由ではないというふうに捉えているのかなという思ったんですけど。私もいろんな思いがあつて、社台の保育所がなくなったときも、かなりちょっと怒っていたほうだったものですから、そういうものあつて、社台はなぜという絶対表にあるんですけど、ただこういう立場なものであるいろんなことを、全般的なことを判断しなければならないので、まして今保育所にやっていつているお母さん方というのは、保育所から白老まで来なければならないという、そういう中でやっていつますよね。だから、今後小学校入ったときも、また同じ形になっていくわけですから、お母さん方の意見ももすごく重いなというふうには受けとめているのです。そういうことも含めて、やはり私はPTAの役員方々が30年、1年ごとにとつていうことは、賛成の立場なのかなというふうには捉えたんですけど、それでいいのでしょうか。それが30年なのか30年といつたら今から5年後ですね。だから、2年後がその後5年後だったら、どういうふうに考えられたその思いというのは何なのかなと思って聞いていたのです。2年後ならだめだけど、3年後ならいいというのは、もっと話し合う時間がほしいとか、いろんな検討する時間がほしいという意味なのか、どちらなのかなと思って。賛成という考えになったのかなというふうにして聞いていたんですけど、それでいいのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 一応役員のみんなどの話し合いでは、今25年ですよ。あと5年間をかけて平成30年度、前後にはなると思いますが、それをめどに統合に賛成しようではないかという話になったのですけど。その中で出たのは、社台小が後で入るとい話には皆さん、それは言っていました。やっぱりそれでは生徒がかわいそうではないかという話は言っていました、実際の話。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） ということは30年、この5年間をかけて、統合は将来的にはしなければならないだろうけれども、5年間をかけてじっくり相談をしたり、状況判断したり、それぞれPTAで話し合っていきたいということは、それは緑小、白老教育委員会に対してもやるのであれば同時にやってほしいという意味を含めての5年後ということに捉えていいですか。それともやるならお先にやってください、うちは5年間考えさせてもらいますという意味ではないですか、その辺。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 私個人としての意見ですけど、やっぱり3校同時でやりたいです。もし社台だけずっと残るのであれば、私もずっとは反対したいほうに入りたいです。そのあとに2年後3年後にぽんと入るのであれば、あまりにもかわいそうかなと思って、そういう気持ちですね。統合に関しては反対ではないです、やはり。ただ、社台だけ残るとするのは私も。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員よろしいですか。参考人が退席した後に各委員からの意見は参考人が退席した後承りたいと思います。ほかに委員からのご質問はございますか。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 私は地域の方が最終的に判断すべきだと思っているのです、統合というのは。今の統合に反対と賛成半々ですよとって、賛成の人はあまり理由とか話がないというけど、逆に教育委員会のほうから27年に統合したいと来ましたよね。教育委員会のほうというか、行政のほうからそういう話があったから仕方ないと、その時期別にして、統合後は否めないのだという考え。だから何か統合することによって、こういう学力とか子供たちの指導とか、そういう部分が、メリットがあるから統合したいというような意見なのか、その辺ちょっと。あまり賛成の人方は意見出なかったよとあったのだけど、その辺今言ったようにそういうようなのがあったから仕方ないという消極的な賛成なのか、反対の人の意見というのは大体わかります。だけど、賛成の人は逆に社台地区でどちらかといったときに、多分意見出ると思うのだけど、その辺の部分をもしあるのなら聞かせてほしい。なければないでもいいのだけでも、ちょっとどうかなと。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長。

○参考人（木村和枝君） この間話したとき、友達ができるとかという話もありましたよね。行くと友達ができるからいいという話がちらっと出ていました。学年にしたら2人のところかあたりするので、行けば友達ができるのではないとか、そういうのもありました。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 先ほども吉田委員から話あったけど、何年か前に保育所なくなりましたよね。いろいろな説明して理解得て白老に移ったのだけど、今度小学校なくなるよと。それに対するお年よりは別にしてそういう若い人方の地域のそういう感情というのはいませんか。保育所もなくなる、小学校もこの地域どうなるかと、そういうような意見というのはいませんか。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長。

○参考人（木村和枝君） 個人的というか、私の周りでは社台小があったほうがいいのか、そういう話は聞いたりします。知っている人はなくなるの、なくなるのとかいう話は、昔からある学校なのでなくなると寂しいとかそういう話は聞いたりします。

○委員長（小西秀延君） よろしいですか、ほか質疑をお持ちの委員。本間委員。

○委員（本間広朗君） 本間です。ちょっと話長くなるかもしれませんが、私は虎杖小のPTA 5年間やっていました。ちょうどそして平成20年に準備委員会が立ち上がって、それから5年間ずっと統合までかかわっていましたが、中学校の。今言われた意見というのは、すごくわかるというか、そういう意見はいっぱい出てきました。いじめのことで統合したらいじめにあうのではないかと、本当にやりたいのなら先に白小やったらどうだか、ほとんどの意見は出ました。1番これから大変なのは恐らく今半分半分ですよ、賛成反対が。これ役員として、これからみんなの意見を聞いてやっていかないとだめだと思うのですが、この半分半分の意見を聞くと多分どっちに今、統合したくないとか、したいとかというお話出になってくると、どっちにいったいいいのかというのがわからなくなると思うのですよ。そうすると、どこかでだれかが判断しないと、この話というのはみんなの意見がある程度まとまったらそちらのほうに行けばいいと思うのですが、それに何年かかるかというのと先ほど30年となっていてね。でも、僕も5年間これからやるとなると、今例えば低学年でいる方がほとんどいなくなりますよね。では、その話というのはまたどこから、また1から始めないとだめだという、課題という心配も出てくるし、だからある程度、まだ今25年ですから6年ほとんど来年ですよ。来年である程度結論出していかないとだめだと思うのです、方向性というかみんなの。そこで、僕も5年やっていたからよくわかるのですが、これで今多分ここ今委員からいろんな質問あっても答えられないと思うのです。まだまだ恐らくまとまってないと思うのですね、意見が。自分たちの多分皆さんの意見も一人一人きょう出られた方もまとまってないと思うのですよね。これからいろんなそういう課題の整理もしていかないとだめだし、ほんとに例えばやる課題、整理しなければならない。やらないならやらない、統合は。そういう整理もしていかないとだめだと思うので、その辺のところ、役員としてこれからどういう方向性を持って話ししていくのかなというのがちょっとその辺。多分4人とも違う意見だと、またばらばらになっていくし、これからの教育委員会とも会議出ますよね。例えば会長さん、副会長さん2人ぐらいずつこれから出て行くと思うのですが、その辺の意見をどうまとめるか、多分まとまってないと思うのですよね。だからまとめていくのかなと、1番最終的に決断していかなければ、僕会長やっていたので、本当に最終的に会長さんがある程度判断しないとだめだというか、と思うのです。それこそ地域というか、

保護者もそうですけど、地域の方もかかわっていますので。その辺どういうふうな判断をしていくのかなというのが、ちょっとまだ僕ここで聞くのが早いような気がするのですが、そういう思いを聞かせていただければなと思って。ちょっとまだここで話しすると。なかなか僕も皆さん気持ちよくわかるので、なかなかちょっと聞きづらいところもあるのですが、本当にいろんなそういう課題というか、いろんなそういう心配事。うちの中学校のときは竹浦もそうですけど、ほとんどが正直言って反対でした。反対からなぜ統合になったかっていうことは恐らく想像つくと思うのですが、やはりいろんな子供たちのことを考えてとなると思うので、そういうこともいろいろこれから話し合っていかなければならないと思う。時期的なものも、先ほど言ったのですが、本当に5年でいいのか、27年度でいいのか、もうちょっと伸ばしてくれとか、そういう課題が整理できないと、前に進まないと思うのです。それ1年で果たしてできるかどうかというのもあるのですが、その辺のところ、ちょっとどう聞いていいかわからないのですが、その辺役員としてどういう方向を持って行きたいというか、そん辺ちょっとお聞かしていただければと思います。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 一応この間保護者の皆さんで話し合っ、こういう場を開くという話もしました。保護者の人からこの場をどういう感じで話し合ったのか教えてほしいという話もされています。実際また集まって保護者みんなで話し合おうとは思っています。保護者の皆さん、高学年の方の意見もうそうですし集まりも悪いという。やはりもう何年後何年後となってしまうものですから、ちょっとこの問題に対して関心が薄いような感じがあります。逆にこれから入る人たちの意見を聞いたほうが、強く聞いたほうがいいのではないかなと実際思っています。これからやっていく上で何回もみんなでまた集まるしかないような気がします納得するまで。1回2回だとやはりしゃべらない方も多数いるので、やはり意見をまとめて持って来てもらうような感じで何回も開くしかないのではないかなと思っています。

○委員長（小西秀延君） それでは、山田副委員長どうぞ。

○副委員長（山田和子君） 本当のきょうはお疲れさまです。私が教育委員をやらせていただいたときに、社台小さんの運動会の様子とか、卒業式で卒業生が大泣きする様子とかを間近見てきた人間の1人として、社台地区の人たちがいかに子供を大切に、地域で育てているかという様子を十分理解して認識しているつもりではありますが、私は統合に賛成の立場なのですが、2020年にオリンピック東京でありますけど、サッカーをやった経験とか、野球をやった経験とか、バスケットをやった経験とか、私が自分自身に置きかえたときに学校時代でしかないのです。そういう大人になってからは全然そういうことやはりできないし、スポーツ選手になるわけではないからやらないし、だけでも小学校、中学校でそういった集団的なスポーツを通して、サッカーのボールが胸に当たったときの痛みとか、ドッジボールが頭に当たったときの痛みとか、そういう体験をじかにできることはすばらしい経験だと思うのです。だからこそ私は、なるべく多くのそういうスポーツができるような環境で子供を育てたいと思うし、と思っているのですが、皆さんはそういうスポーツを通した経験

とか、そういうのを子供にどうやって、与えていったらいいかなと思っていらっしゃるかなとお聞きしてもいいですか。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 実際私も小学校、中学校、高校、社会人でサッカーやってきたのです。今おっしゃっている気持ちはよくわかります。私の娘も今2年生で実際緑小でたくさんの子供たちの中でやらせたいという気持ちは十分あります。今、水泳クラブのほうで週に2回通っているのですが、本当にたくさんのスポーツやらせたいなど。大きな学校といえますか、人数の中に可能性を見つけてみたいのです。勉強もそうですね。私はそっちの考えで統合には賛成なのです。

○委員長（小西秀延君） ご意見がある方はおっしゃって。佐々木監査。

○参考人（佐々木正記君） 私も賛成なのは賛成なのですが、はっきり言って平成27年度の統合校というのは、私たちにすごい負担がかかるのです。1年の間にしなければならないことがすごいありそうなので、虎杖と竹中のときもいろいろ知り合いから話聞いていて、大変な思いをしていた話も聞いていたので、やはり1年はちょっと無理だよという話も聞いていたので、これは私たちのご負担はすごく大きなと思って。まずそれが一番私たちの悩みなのです。私は統合には別に反対はしてないのですが、どちらかという子供たち多いほうがいいと思っているので。ただその27年度という、いきなりふっと沸いた話で、話を進めてくださいと来られたので、私たちもどういふふうにし進めたらいいとか、一般の保護者にもどういふふうに話をしたらいいかというのも全くわからないで、とりあえず話し合ひましょうというふうにいったので、全くまとめようがないのです。だから、それがもし27年度ではなく、まだ1年延ばせられる、2年延ばせられるという話になると多分聞くほうも聞いてくれると思うのです。今の段階ではいきなり話出て、何こんな社台小なくなるのかというふうに反対する方もいれば、それだったらすぐ統合したらいいという人も中にはいるし、やはりそれで話がまとまらないと思うのです。27年というふうに決められると、みんなやはり複雑だと思うのです。それが1番私はどうかと思っているのですけど。

○委員長（小西秀延君） 萌出副会長。

○参考人（萌出義彦君） よく意見がまとまっていなくてわからないです、まだまとまった意見言えないです。

○委員長（小西秀延君） まだ考え中でございますか。木村副会長。

○参考人（木村和枝君） 私は上の子のときは、上の子今20歳なのですが、少年団とかあって、男子がサッカーで女子がバスケットとかで、結構少年団で集まったりとかいろいろあって、今人数も少ないのでなくなって、うちも運動嫌いだから、一応プールとか行ったりはしていたのですが、運動が嫌いでなかなかあれなのですが、やはり地域塾とか、そういうのとは行きたがるのです。みんな行けば行くのだけど、1人ではやはりいやだとか言って行きたがらないので、大勢でいろんなことができるというのも魅力。うちはもう5年生なので2年しかないのだからちょうど何か微妙なところにいるので。子供はなくなるのは寂しいとは言っています、やはり。母校がなくなるのは寂しいなど。でも人数段々減ってきているの

だったら、いずれかはなるのかなっていう話とかは家ではしています。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） それと一つ、地域のつながりという点で町内会の活動は今どういう状態なのですか。教えていただいてもいいですか。もし学校がなくなったら地域の町内会活動等に何か支障が起こるかどうかなという視点も含めてお願いします。

○委員長（小西秀延君） 塚澤会長。

○参考人（塚澤 均君） 今現在ですけど、今週の土曜日、地域の方30名と保護者30名くらい。全部で80人くらい集まるんですけども、地引網計画をして、今もうお詰め段階です。あとその他皆さんと同じような、古紙回収物もそうですし、パラダイス、その他。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長。

○参考人（木村和枝君） 子供パラダイスという、子供でいろんなゲームをつくって、体育館でやったりゲームをして、あと地域の人がお花を持ってきてこういういろんなカップとかで花を自分たちで刺すようにしたりとか、あとお茶を点てもらったりとか、だから地域の人たちも来てゲームをして遊んで、子供たちがつくった景品をもらったりとかして遊んだり、そういうのをやっています。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 今のパラダイスの件なのですけど、それは学校が主体となっていてやっている行事なのですか。それとも、町内会が主体となっている行事なのですか。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長。

○参考人（木村和枝君） 学校が主体となってやっております。あと12月に餅つきも一応やっているのですよ。それも地域の人たちもオーケーなのです。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 先ほど統合の意味がわからないと、教育教育上の統合の理由というのは。もう少ししっかりつかまなければという話があったので、これから話し合いどんどん進んでいこうと思っておりますので、余計なことですけども、ちょっと一言言って、お願いしたいと思うんですけど。実際に教育的な統合というのは、金の問題で片づかないです。財政がだめだから統合するのではだめなのです。私たちが内々みんな確認しているのは、教育問題は教育上子供たちが伸ばせるか、幸せかということが判断の基準で、そこから出発しなければならない。だから町としては、行政としては、金がない学校何億と建てたら、町パンクすることだってあるわけだから。だから2、3年のもの何億かけるわけにいかないわけだから、それは 行政の問題です。ところが、まちの人たちは子供の教育に関しては地域が決めるのだというのが原則なのです。ですから、実際に今まで話が出た学力、今のままでいって、今の小人数でいって学力が心配ないのかと、まずそこを考えて複式や何かもそれを乗り越えるかという、私も複式学級指導をやってきたものですから、それいい悪いは抜きにしますけども、そういう形で親として見ていていいかどうかということが判断の一つ。それから人間関係が小さくなるかもっとの伸ばすかという、その辺の観点をもっとはっきり、そののところで決めていくべきだと。それともう一つは地域性。今も話出ただけですけども、

子供たちがいなくなったときに我が社台はどうなのだという。本当に火が消えてしまうか、大丈夫かというそこら辺の判断というのきちっとやはりするべきだと。今話出たように子供と地域が一緒になって何かをやって、地域盛り上げているのだと。これで大丈夫というのだったら、学校を残せと大威張りで言えばいいと思うのですよ。それと統合する場合に今残っている父兄の方々がもうやっていけないと。これだったら我々が負担かかってきてしまって、もうだめだといったときに統合をお願いをするのです。我々がまだまだやれるのだというときには、大いに残すべきだという意見を大きい声で言えばいいと思うのですよね。そこら辺の判断をこれからきちっと話し合っただきたいなっていうふう思うのですよ。今スポーツの話や何かあったけども、それはいい悪いは何をやっても出てくるのですよね。だけれども、今これから、では少しずつ大きいところへ行こうと、今この少子化の世界で白小、緑小と一緒にになったから、いつまでも安泰かというところではないです。今50人ぐらいの学校が少なくなって、一桁になるのはあつという間ですからね。そういう中で考えると、本当に今どこで判断をすべきか。子供たちを自分が守るのか、それともそういう条件のところに出すのかというその辺の判断というのは、今話したようにすごく難しい話だけれども、その先を見通すのは地域の人たちでしかないということだと思ふのですよ。ですから、私は子供たちと地域が一緒になってやっていけたら、全部乗り越えられるのではないかなという気はしているのです。だから、後それ以上言うと自分の意見ですから言いません。

○委員長（小西秀延君） 委員からの意見ということで留めたいと思います。ほかにご質問ありますか。

本間委員。

○委員（本間広朗君） 先ほどちょっと1年間、来年26年でほとんどある程度方向性見つけないとだめだと思うのですが、本当に1年が短いのか、と思っているのか、ちょっとこういう話酷かもしれないけど、もっと先延ばししたほうがいいのかという。経験からいうと、私5年先ほどやったと、5年間ずっとそうです。例えば先延ばしにしても統合の話ずっと変わらないです毎年毎年。もっとももっといろんな課題を整理しようとする、いろんな事細かいことがもっとまだまだ出てくるので、それをやるための会議会議でもう明け暮れていたとか、もちろん教育委員会とのお話もするし、準備委員会もあるかどうかかわからないですけど、その中で4校とって、虎杖小中と竹浦小中。萩野さんはある程度ウェルカムというか来る立場ですから、あまり入れないといったらあれですけどオーケーだから。その例えば社台小と白小の課題とかこれからいろんな整理していかないとだめなのですけど、ただ言っておくといったらあれですけど、確かに先延ばしするのはいいのですけど、それは毎年その会議の日数とかも負担になるかもしれないですけど、経験からすると同じなので26年度内にある程度は方向を見つけるのはいいかもしれないですけど、あと細かいところというのはそんなに先ほど言いましたように、バスとかとそういうのはありますけど、ある程度の課題は整理できてくると思うので、早くすれという意味ではないですけど、その辺よく考えてやったほうが、アドバイスではないですけど、いいのかなとちょっと聞いていたので、本当に教育委員会の会議は何回もあるのですけど、そのほかに私は竹小中と虎杖小中とその会議の前

の会議というか、その前にも2回も3回もやるのです。教育委員会とどうやったら自分たちの意見を飲んでもらうか、やってもらうかと。その前の段階というのがすごくあったので、ただ準備委員会に出て行けばいいとか、教育委員会の話あるから会議をやるだけではなくて、そういう例えばいろんな白小はどういうように思っているかわからないですけど、そういう白小ともお話ししながら進めていくというのも一つの手なので、その辺をアドバイスではないですけど、意見は多分なかなかもらえないかもしれないですけど、その辺よく考えてやったほうが、ある程度課題整理して、来年度ぐらいには整理がついて、あと何年というのは僕らはあれですけど、ある程度整理ついていくと思うので、教育委員会もその3校の中学校統合経験していますから、統合すれというわけではないですけど、そういう話もいろいろと経験していますので、課題の整理とかのつけ方もわかっていると思いますので、その辺よく教育委員会とお話ししたほうがいいと思いますので。

○委員長（小西秀延君） 統合ご当人からのアドバイスということで。

○委員（本間広朗君） やはり地域のいろんな思いがあると思いますので、その辺はやはり皆さんで整理したほうがいいのかと、ちょっと考えていますので。

○委員長（小西秀延君） 木村副会長どうぞ。

○参考人（木村和枝君） 地域の方とかも呼んで話とかしたのですか。父兄の方だけ。

○委員長（小西秀延君） 本間委員。

○委員（本間広朗君） 地域の方は入れないです。入れないというか、あくまでも、まず学校の問題として考え、P T A の立場として考えていかないとだめなので、地域の方は正直いって言っていいかわからないですけど、無責任といたらあれだけど、なくならないですよ、中学校、できれば。となると、今までP T Aで話していたことは、地域の人が入ることによって、いろんなそういうまた混乱というか、実際に僕も地域の方というか、P T A以外の方にいろいろ言われて、いろいろちょっと悩んだ時期あったんですけど、ある程度まとまったら地域の方呼んでもいいかもしれない。もちろん、どちらでもそちらのあれなので。ただ、まずP T Aのほうである程度そういう結論とまではいかないですけど方向性出してから、地域のP T Aはこうだと地域はこうだというようなお話をされたほうが、私が例えば社台の地域の方だとしたら、小学校なくさないほうがいいという考え方になるかもしれない。そういう考え方の人達のほうが多くなると思うので、だからまず子供たちの先ほどちょっと言ったように、子供たちのこととかいろんなことを考えて、あまりいじめのことまでは考えてしまうと、そういうお話ももちろん出ていましたけど、そういうようなことは考えないで、本当に確かにいじめはあるかもしれないですけど、その辺はだから新しい学校、統合した学校といろんな連絡をとりながらと、僕いつも教育委員会に言ったのだけでも、そういう連絡を密にするようにとは何かあったとき、そういうことは言っていたのです、よく。そういうような、いろんなそういう教育委員会とのお話の中で決めていくようなことしていけばいいのかなと思っています。

○委員長（小西秀延君） すいません、ちょっと所管の議題からは外れて立場が逆になってしまいましたが、時間が押してきておりますので続きは別な機会にでも参考のアドバイスし

ていただければと思います。

前田委員。

○委員（前田博之君） 今、委員のほうから中学校の体験ありましたけども、小学校と中学校かなり違うのです。子供たちの1年生から6年生と。中学校は3年間だけど、ある程度中学校は目指すものが大体決まっているのです。小学校1年生からだ幅広いし、当然放課後どうするかという、先ほど斉藤委員も言ったけども、地域で子供たちをどうするかという問題が非常に大きくなってくるのです。僕は統合がどうかという意味ではなくて、そういうことも含めて、視点を変えていくようにしていかないと、地域で子供たちが帰ってきたときにどうなるかという部分も含めてやっていかないと大変なのです。それで私教育委員会に言ったことあるのですが、樽前の話出たのですが、ちょっとその前もいろんな学校の環境とかいろんな問題があって、あこそ特認校にしたけど、正直話あまり役割果たせなかったのです。そして逆に、特認校になって樽前小学校にいた人が、言えば大体名前わかるかと思うのですが、逆に苦小牧もとの学校にも戻りたくないからということで、住所を社台において、そして兄弟2人で社台小学校に入ってきたことがあるのです。それで非常に環境いいということで卒業して、無事いじめとかいろんな問題克服して育ったのですが、やはり特認校部分についても白老町の議会も議論したのですが、白老の教育環境がどうかということだやったのだけでも、そういう部分も含めてもやはりこっちから見ればよその島大したよく見えるのだけでも、今回は白老と緑小と社台なのです。社台と白小とかいうなら別だけど、3校になりますので、僕も経験ありますが、中学校ならすんなり入って来られるのだけでも、社台から来てもぜんぜん違和感ないのだけでも、その辺やはり十分議論しなければいけないかなと思います。それと僕が思うのは、斉藤議員もお話しされたように、お金があるかないかではなくて、どういう地域がどういう子供を育てるかという観点でぜひ議論してほしいなと思うのです。まだ煮詰まってないみたいですが、やはり最終的に僕は地域の人自分たちで決めなければいけないと思っていますから、その主体性だけは失わないで、ぜひ大いに議論してほしいなと、こう思います。その辺どう思いますか。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 今、多数の意見と議論の話が出たのですが、我々役員と保護者にはどれだけの議論する期間があるのかなという部分がとても気になるのですが、それだけの猶予はあるのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 逆に最後に私質問しようかと思ったのですが、教育委員会からの説明のときには、地域の方たちまたは今はPTA、保護者の方が中心になっているでしょうが、いつまでに統合に対するご意見をまとめてくださいという期限のご説明はありましたでしょうか。意見をまとめてくださいというご要望があったかどうかどうお聞きしたかったのですが。

堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） まとめてくださいという要望は今のところないです。ただ、それに近いに月日は言われました。月日といいますか、11月頃に、ことし中には決まるのではな

いかという予想みたいな話はちょっと聞きましたけど、それまでに役員は時間がないような気がして、とても。そういう期間を決めてもらえれば。あと4カ月間春まであるよという話であれば、とても助かるなという気持ちです、話を伺って。1カ月、2カ月ではとてもではないけど。

○委員長（小西秀延君） 議会は役場の組織とは別組織になっておりまして、私たちのほうから、これまでに答え出してくださいということでは全然ないです。逆に住民の方たちの意見を町政に届けるというのが、議会の役割になっていますので、ちょっとそのお答えにはできないのですが、逆にどういう説明を、私たち私たちが行政のほうから説明を受けています。スケジュール的なものも伺っているのですが、保護者の方たちにどのようなご案内をしているか確認したかったのが、今のご質問させていただいたのですが、それでその続きですが、PTA総会を開いてくださいというようなお話等も聞いておりますか。そのような話も聞いていないですか。

堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 結論出せというか向こうは向こうで結論うちらが出すのではなく、向こうで結論を出すような話はされたような気がします。

○委員長（小西秀延君） はっきりわからないということですね。わかりました。ちょっと確認をします。まだ質問ありますか、ありそうですよね。

それでは暫時休憩いたします。

休憩 午後 8時17分

再開 午後 8時28分

○委員長（小西秀延君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き質疑のある委員の方はどうぞ。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） アンケート調査をされましたよね。これはそれぞれ各学校でPTA会長の名前で各家庭に配られてアンケート調査して、まだ最終的な集計は学校ごとやるのではなくて、出てきたものは即そのまま教育委員会のほうに行ったのでしょうか。それとも社台は社台で、出てきたものをある程度その意見として集約されたのでしょうか。その辺ちょっと伺います。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 一応学校側と役員との話し合いでアンケートの結果が出ました。聞いてはいないのですが、多分教育委員会のほうにはこのアンケートは渡されています。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） PTA会長の名前では出されているけれども、もらったものはPTA会長を通るのではなくて、PTA会長が目を通したりして、学校の状況を把握されたのではなくて、教育委員会でまとめたものをもらうという形になるのでしょうか、学校の。その辺全然聞いていませんか。PTA会長の名前出されているから、どういうふうな形でやって

いくのかということは説明があったのかなど、ちょっと思っていたのですが。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 一応この適正計画に対してですけど、やはり地域の皆さんと保護者の皆さんの意見というか、そういうまとめは私たち役員も欲しかったもので、これは一応アンケートは私たち役員が参考とするアンケートとして捉えています。集計の結果ですけど回収率は77%です。地域の皆さん10世帯配布して、回収が5世帯。回収率は50%です。内容的には反対の方のほうが多分多いと思います、6割ぐらい。ただ回収してない方が20何%いますので、これに関しては多分どちらでもというふうに捉えております。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 先ほどからいろんなご意見が出て、まだ議会側というか、この委員会でもいろんな思い思いがあるのですね、だからきょうは参考人の皆さんの社台小学校の地域の方々がどのような話をして、地域の方々がどういう考えをしているのか、そのことを伺いながら私たちも委員会として結論を出して行って、行政側のほうにも行っていきたいというふうに思っているのですよ。先ほどの結露は、時間をかけてでも適正配置の統合は仕方ないだろうと。ただ時間が欲しいと。もうちょっと議論する時間が欲しいということだったというふうに私は捉えているのですけれども、それでいいでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 今おっしゃっているとおりです。地域の方の考えとしては一応賛成だけでも、何で今時期なのかっていうのが多数でした。以上です。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 賛成ということですので、これからまた賛成という形で進めていく中でいろんな問題があると思うのですが、先ほど委員からも出ましたように、私もそうなのですが保育所がなくなったときも、地域と小学校は特に地域のつながりが深いということで、この間教育長、誰かの話の中か答弁か何かで言ったのですが、まず一つは財政的なものは関係ない。スクールバスを出すことはかえってお金がかかるのだという説明をしていました。私も子供の教育に関しては、お金を入れるべきではないというふうに思っていますので、そういう面ではなくても結論として、子供の将来的なことだとか、複式のことを考えて、このままではちょっと厳しいものがあるということも、また反対意見も大事にしながら考えられた結論ではないかと思っているのですが、やはりきちんともしそういうふうに出すにしても、時間も十分に欲しいということですけども、教育委員会に27年というの、私は全体を見てのことだったと思うのです。社台、白老小学校の今の老朽化と耐震度がなくてということと、そういったことを含めると、社台は新しい学校で、耐震の問題は何もありませんので、そういったことも含めると、これから5年間待てるかどうか私もちょっと不安なのですが、だからその辺のことも踏まえながら教育委員会もまたやっていくと思うのですが、社台は社台でやはりその地域の今までやってきたかわりをしっかり大事にしてもらいたいということは、教育委員会にきちんと申していくべきだというふうに思います。そうでないとやはり子供たちは社台に住んでいるわけですから、そのいる子供たちを大事にもらいた

いということと、先ほどもちょっと出たのですが、社台の学童保育がない、児童クラブがないのですよ。それで必要がないと、私も何回か質問したら、必要がないと、放課後はクラブとかいろんなのをやっているのだからいいという話だったのです。だけど今後、今度白老と一緒にあったときどうなるのかということも、今後の検討の中で話したほうがいいのではないかと。いままでは社台独自のやり方でできたと思うのですが、一緒になったことでお母さん方の送り迎え、いろんな角度でいろんなことが出てくるのだと思うのですが、その辺の意見もちょっと集約して、児童クラブというのは今後、子育て世代を応援するための一つの大きな守っていくための児童クラブなのです、子供も親も。だからそれが今後社台で統廃合したときどうなのかということも、最後でいいと思います、それは。なるときの意見としてでもいいのですが、そういった意見も付帯するような形にやっていかなければならない必要性が出てくるのではないかなというふうに、ちょっと自動クラブのことを言ってきたものとしてはそういう思いもあるです。そういったことも含めて、大変先ほど新しいお母さん方の意見も聞くというお話もされていましたが、また同じ意見が同じように出てくるのではないかと思いますので、ある程度自分たちが進められる範囲というのを決めながら子供たちのために、地域をどう守って、学校と地域の関係をどう保っていくかということの基本を考えていただけたらいいのかなと私は思いながら話し聞いていましたけども。そんな思い出しますが、きつとつらい立場にもこれら立たされるのではないかと、それで私は先ほど休憩時間、学年何年生がいらっしゃるのですかと言ったら、統廃合もう入るころにはいらっしゃるP T Aの方といらっしゃる方といらっしゃいますので、地域とのかかわりの中でもつらい立場にもなるのかなと思うのですけれども、その辺は会長さんとしてどういう思いで、どう今後決意をしてやっていこうというふうに考えられているか、伺っておきたいと思えます

○委員長（小西秀延君） 堺澤会長。

○参考人（堺澤 均君） 実際、細かい話と申しますか、バスとかクラブとか、1回目の教育教育委員会の方々と話したときに、その話はとりあえず後にしてくださいと言われてました。それで、とりあえずどういうふうに思っているのかと。私たち役員もそれを超えて話し合いをしてもいいのかどうかという、思いました、実際。保護者同士で話し合ったときも、やはりいじめの問題はもう統合したときの話ですし、バスがどこでとまるか、クラブその他細かいのはたくさんあると思いますけど、それを超えての話が今の段階ではまだできないのか、どこまで煮詰めて話をしているのか、それは統合決まって、準備委員会を決めてから話し合うことであって、という感じ言われたというか。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 私もそう思います。ただ統合を1つにするというめどはある程度つけたという結論をいいましたので、そうであれば今度それ進めていくために、地域と子供との間をどうするかとか、そういったことが今後お話の中で必要になってくるのではないかなと思うので、ちょっとお話しさせていただいたのです。そういう面では、教育委員会はそれは後でもいいというふうに考えているのかもかもしれませんけれども、言えるときに言っておい

たほうが私はいいと思うのです。後々と言っていたら本当に後になりますから。そういうこともきちんと含めて検討してもらわないと困るということの、子供たちを守っていくということからいくと、私はそんなふうと思うのです。と思って結論出したといっているのですが、そういうことで、年数とかそういうのはこれから教育委員会とやりとりすることだと思いますので、ただ考え方の持ち方として、そういうことも今後大事にしていてもらいたいなというふうに思っているものですから、教育委員会がまず統合をやことではいっばいだと思うのですが、絶対それはついてくる問題だと思いますので、頑張ってくださいというふうに思います。

○委員長（小西秀延君） ほか、ご質問ございますでしょうか。ないようであれば、特に今までの議論の中で、社台小学校PTAさんから何か、逆にここは議会に要望したいとか、そのようなお話があれば承りたいと思いますが。お話しした内容でよければ、そのままということでも構いません。よろしいですか。

それでは参考人の堺澤会長初め副会長、監査の役員の皆様、本日は大変ありがとうございました。ここで退席をお願いいたします。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 8時40分

再開 午後 8時50分

○委員長（小西秀延君） それでは、ここで休憩前に引き続き、会議を再開します。

ただいま参考人のご意見をお聞きしましたが、またこの後、緑小白小という形でご意見を引き続き気に入って了解してお聞きしますが、本日の内容を受けて、各委員からのご意見をお願いしたいと思います。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） これからやっていくことに対して、あした緑丘小学校です、それで社台のある程度結論めいたこといいました。5年くらい後にしてほしいと、そのことをほかの学校とやるときに出してもいいのかな。先程言った白小が5年待つっていったらすごく難しく厳しいと思っています。その辺で白小さんは統合することに賛成ですっていったときに、27年をめどにっっていつているときに、では27年度って考えているんですか、とかそれはこれからの話し合いだからそこまで考えなくていいのですか。

○委員長（小西秀延君） 岡村局長。

○事務局長（岡村幸男君） それは聞き方によると思います。そこはあくまでも早急にやってほしいのかとか、今聞いた5年だとか何年だとか具体的な数字ではないと思います。あくまでも役員の方たちはどう考えているのかということを中心に参考人に対してお聞きしていただければいいと思います。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） そのとおりだと思います。だから学校、学校によって違うと思います。今度緑小行けば受けるほうですから、だから立場、立場で違いますから、その辺をきま

えて質問してしていけばいけないと思います。

○委員長（小西秀延君） ほかの学校の方の意見聞いてないので、今ご意見といっても難しいではないでしょうか。3校終わって皆さんからご意見聞いて、各委員からご意見等もまたあらためてお聞きしたいと思います。それでは本日の会議はこの程度にとどめたいと思います。

◎閉会の宣告

○委員長（小西秀延君） これをもって、本日の総務文教常任委員会を閉会いたします。

（午後 8時52分）